

令和2年度 鳴門教育大学附属特別支援学校研究発表会
研究実践報告

【主題】

「教育活動全体で取り組む自立活動の指導」



鳴門教育大学附属特別支援学校（「学校要覧」より）

- 知的障がいのある児童生徒を対象とした特別支援学校



本校の使命（「学校要覧」より）

本校は鳴門教育大学に附属して設置された特別支援学校として、教育基本法及び学校教育法に基づいて特別支援教育を行うとともに、さらに、次の使命をもつ。

- 1 大学と一体となって、特別支援教育の理論及び実践に関する科学的研究を行う使命
- 2 大学の学部学生及び大学院生の教育実習及び 教育実践研究等を行う使命
- 3 地域において特別支援教育のセンター的機能を実践的に発揮するとともに、本県の教育の発展に寄与する使命

本校の概要について

学校教育目標

児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、教職員が協働し、児童生徒一人一人の特性や発達支援段階に即し、将来を見据えて教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、他者を大切にしながら、健康で豊かな生活を送ることができるような児童生徒を育成する。

(「学校要覧」より)



めざす子ども像

- 1 明るく、仲よくできる子ども
- 2 じょうぶで、元気な子ども
- 3 よく働く子ども
- 4 かいっぱいがんばる子ども



鳴門教育大学附属特別支援学校（「学校要覧」より）

●児童生徒数 59名（令和2年度）

小学部18名（1学年3名の複式学級）

中学部18名（1学年6名）

高等部23名（1学年8名） ※高3年は7名

※自閉症の児童生徒の割合が全体の63%

1 研究主題設定の理由

2 自立活動における指導内容設定表について

3 研究目的, 方法について

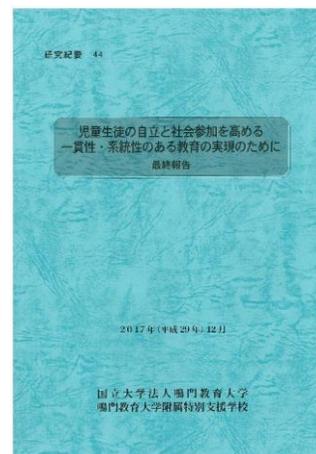
4 各学部研究について

5 総合考察

1 研究主題設定の理由

2011～2013年度の研究

どのように教えるのか（手立て）
（主として個への対応）



←研究紀要44



2014～2017年度の研究

何を教えるのか（目標・内容）
（集団参加の充実・促進）

指導目標や
内容の見直し

個への対応をしつつ
集団参加の促進

1 研究主題設定の理由

今回の研究

妥当性のある中心的課題
(指導目標・指導内容)
(PDCAサイクルによる実践)

※これまでの学校研究の継続性
課題解決に向けた取り組み

- 個々の実態把握
- 中心的課題の設定
- 中心的課題の改善克服
に向けた授業づくり
- 授業改善

1 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領

(特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編p19,p20より抜粋)

- ① 総則における特別な配慮を必要とする
児童生徒への指導
- ② 特別支援学級における自立活動
- ③ 通級による指導における自立活動
- ④ 個別の指導計画等の作成

特別支援学校だけでなく、小・中学校でも自立活動の必要性が示されている

研究主題

「教育活動全体で取り組む
自立活動の指導」

2 自立活動における指導内容設定表について

3 研究目的, 方法について

4 各学部研究について

5 総合考察

2 自立活動における指導内容設定表について

所属	●学部	年	氏名						
プロフィール	診断名								
	アセスメント結果								
【児童生徒の生活上・学習上のつまずき】									
↓									
* 児童生徒の生活上・学習上のつまずきに関する項目に記入する									
【児童生徒の実態】									
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション				
↓									
【実態を踏まえた、優先すべき指導目標】					* 指導目標の設定に活用する(教育支援計画とリンク)				
					【3年後の姿】				
					【本人・保護者の願い】				
					【進路希望】				
					【教育目標】				
					:				
↓									
【中心的課題の設定】									
↓									
【具体的な指導目標を設定する】					* 目標の設定に活用する				
					【児童生徒の好きなこと、モチベーションが高まりそうなこと】				
【指導目標に関連する区分、項目の選定】					【児童生徒が現在できていること】				
↓									
個別の指導計画へ									



←2020年度後期に使用した
自立活動における指導内容設定表
(以下：設定表と表記する)

2 自立活動における指導内容設定表について

教育活動全体で取り組む自立活動の指導 授業改善のPDCAサイクル

Action (改善)

授業研究会
学部研究会を通じた
今後の授業改善に向けた
方策の協議

Action
(改善)

Plan (計画)

「自立活動における指導内容
設定表」の作成・共通理解・
授業計画

Plan
(計画)

Check (評価)

授業研究会
学部研究会を通じた授業
の振り返り・評価
般化の評価

Check
(評価)

Do
(実行)

Do (実行)

計画に基づいた授業の実施
(般化を含む)

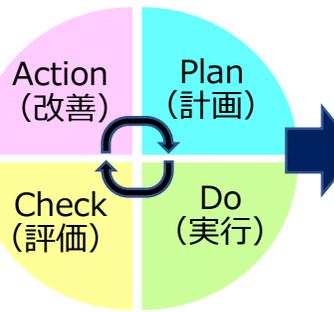
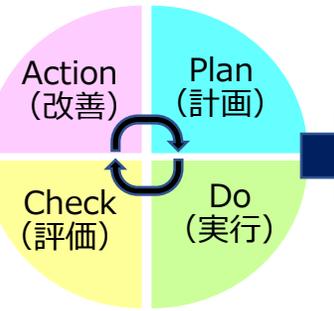
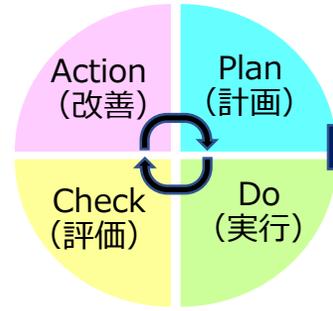
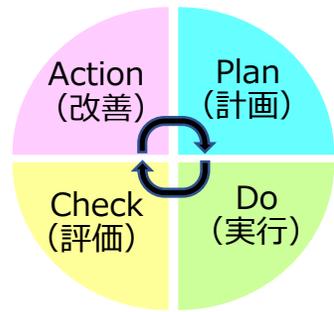
2 自立活動における指導内容設定表について

2018年

2019年

2019年

2020年



2018年度
前期

①

2019年度
前期

②

2019年度
後期

③

2020年度
前期

④

2020年度
後期

⑤

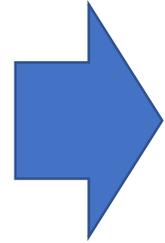
2 自立活動における指導内容設定表について

設定表の改善案について

- ・ **作成に要する時間，労力がかかるため簡素化していく。**
- ・ 担任が一人で作成していると，内容が「合っているのか」と不安になる。複数の教員が協議して作成できるような仕組みになると良い。
- ・ **中心的課題をどのように導き出すかを分かりやすく示す。**
中心的課題の妥当性を高める。
- ・ 記入のしやすさや見やすさの改善
- ・ 設定表を記入する時期と学部協議をするタイムスケジュール等の改善。
- ・ 保護者のニーズと指導目標を共有する仕組みと，中心的課題へのつながりを明確にする。

2 自立活動における指導内容設定表について

所属	●●部	○年	氏名		
プロフィール	診断名				
	アセスメント結果				
	障がいの程度・状態等				
	事例の概要				
① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について情報収集					
↓					
②-1 収集した情報(①)を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
↓					
②-2 収集した情報(①)を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の観点から整理する段階					
各項目の末尾に()をつけて②-1における自立活動の区分を示す					
②-3 収集した情報(①)を○年後の姿の観点から整理する段階					
各項目の末尾に()をつけて②-1における自立活動の区分を示す					
③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階					
↓					
④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的課題を導き出す段階					
↓					
⑤ ④に基づき設定した指導目標(ねらい)を記す段階 指導目標(単期単位)					
課題同士の関係を整理する中で、 ※指導すべき指導目標として					
○選定された項目(番号選択)					
⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
↓					
⑦ 項目と項目を関連づける際のポイント					
↓					
⑧ 具体的な指導内容を設定する段階					
⑨ 具体的な指導場を設定する段階					
① 具体的な指導目標	② 具体的な指導目標	③ 具体的な指導目標			
指導の手立て	指導の手立て	指導の手立て			
指導場面	指導場面	指導場面			
指導結果・評価	指導結果・評価	指導結果・評価			
般化場面	般化場面	般化場面			
般化場面における評価	般化場面における評価	般化場面における評価			



↑ 2019年度後期

所属	●学部	年	氏名		
プロフィール	診断名				
	アセスメント結果				
【児童生徒の生活上・学習上のつまずき】					
↓					
* 児童生徒の生活上・学習上のつまずきに関係する項目に記入する					
【児童生徒の実態】					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
↓					
* 指導目標の設定に活用する(教育支援計画とリンク)					
【3年後の姿】					
【実態を踏まえた、優先すべき指導目標】					
↓					
【中心的課題の設定】					
↓					
【具体的な指導目標を設定する】					
↓					
【指導目標に関連する区分、項目の選定】					
↓					
個別の指導計画へ					
↑					
* 目標の設定に活用する					
【児童生徒の好きなこと、モチベーションが高まりそうなこと】					
【児童生徒が現在できていること】					

↑ 2020年度後期

3 研究目的, 方法について

4 各学部研究について

5 総合考察

3 研究目的, 方法について

<学校研究の目的>

(1) 「自立活動における指導内容設定表」を活用し、中心的課題を導き出す協議を行うことを通して、妥当性の高い学習内容を設定する。

(2) 児童生徒の実態や中心的課題, 指導方法（手立てや場面）を共有し, 様々な授業で中心的課題の改善・克服に向けた授業づくりや授業改善を行う。

3 研究目的, 方法について

<学校研究の仮説>

「自立活動における指導内容設定表」の作成や共通理解を通して、児童生徒の実態や中心的課題を明確にし、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するための授業実践や授業改善を行っていくことを通して、教育活動全体で取り組む自立活動の指導の実践ができるようになるであろう。

3 研究目的, 方法について

2018年度の取組

自立活動に関する校内アンケート

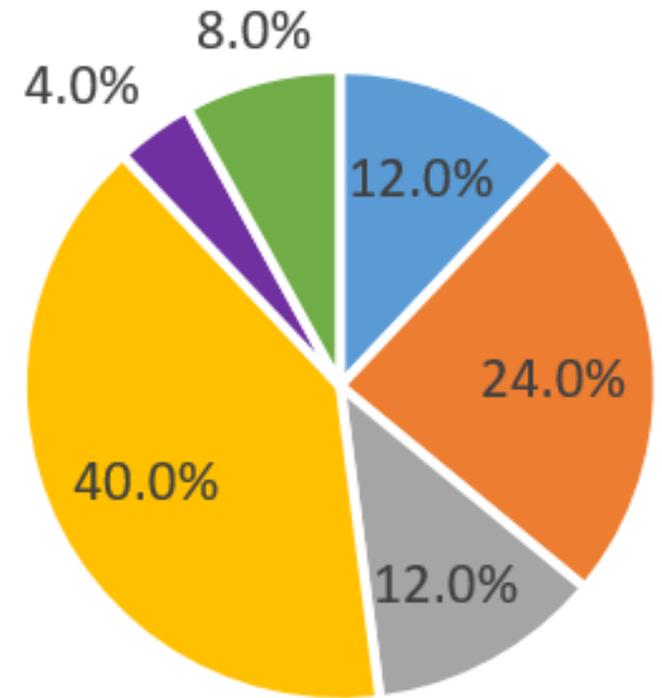
平成30年7月実施

学部内の児童生徒の実態について学部内で共通理解することができている。

- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらともいえない
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

■ ■
できている・・・36%

■ ■
できていない・・・44%



※児童生徒の実態について学部内で共通理解が十分できていないと感じる割合が高い

3 研究目的, 方法について

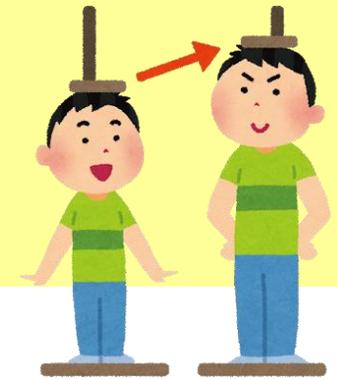
2018年度の取組

自立活動における指導内容設定表の活用

自立活動の捉え方についての共通理解
(本学井上とも子特命教授より)

※設定表の書式や運用方法等の課題が
明らかになった

資料3					
所属	氏名	学年	性別	身長	その他
プロフェッショナル	井上 とも子	小2	女	125	発達障害
○実施形態					
職業の提供	心算の安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の様子	コミュニケーション
○指導目標(学期単位)					
○達成された項目(学期単位)					
職業の提供	心算の安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の様子	コミュニケーション
○具体的な指導内容、指導場面					
関連する項目と表紙で知す					
①具体的な指導目標	②具体的な指導目標	③具体的な指導目標			
指導の手立て	指導の手立て	指導の手立て			
指導場面	指導場面	指導場面			
指導観察・評価	指導観察・評価	指導観察・評価			
観察場面	観察場面	観察場面			



3 研究目的, 方法について



授業間での支援の方法を統一するためには？



中心的課題と目標との関連はこれで良いのかな？



卒業後の生活を考えて目標設定を
しては？

3 研究目的, 方法について



フィードフォワード
(feed forward)

「未来に向けた解決策」を考えよう

「教材の工夫」「教員の支援方法」
「教室環境」「目標設定の妥当性」
「児童生徒の強みは何か」
「児童生徒・教員ともに楽しんで授業ができる工夫」等



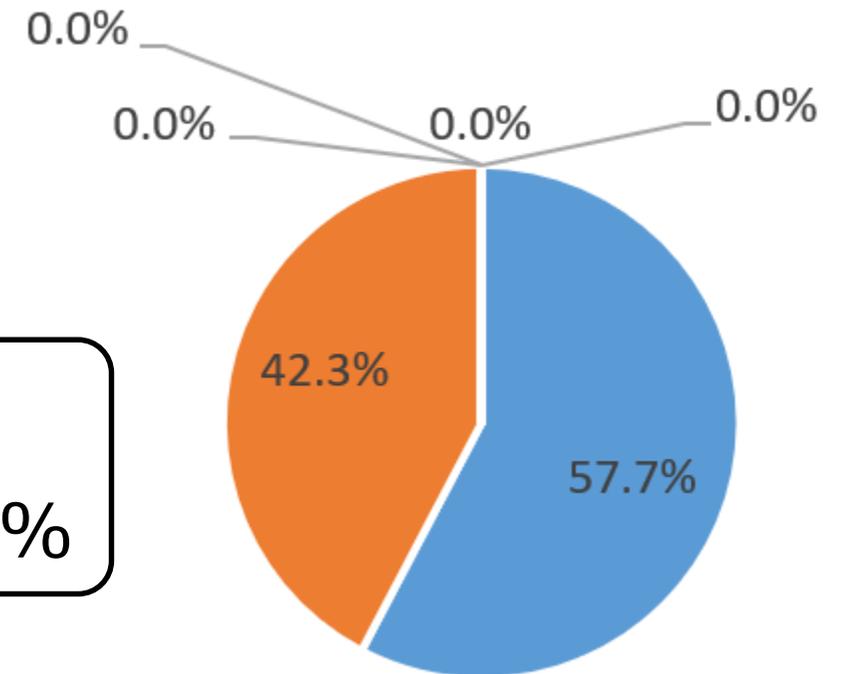
3 研究目的, 方法について

2019年12月 校内アンケートの実施 回答者26名

対象児童生徒の中心的課題を改善・克服する取組について, 学部内で共通理解ができている。

- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらともいえない
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

■ ■
できている・・・100%



※学部内で中心的課題についての共通理解ができた

3 研究目的, 方法について

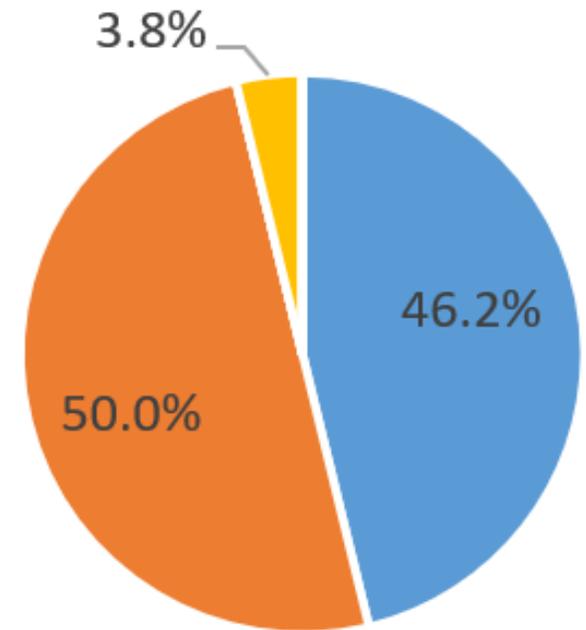
2019年12月 校内アンケートの実施 回答者26名

教育活動全体の中で, 児童生徒の中心的課題の改善・克服を目指した授業を行おうと意識している。

- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらともいえない
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

■ ■ できている…96.2%

■ できていない…3.8%



※研究の目的を理解して, 授業に取り組むことを意識できている

3 研究目的, 方法について

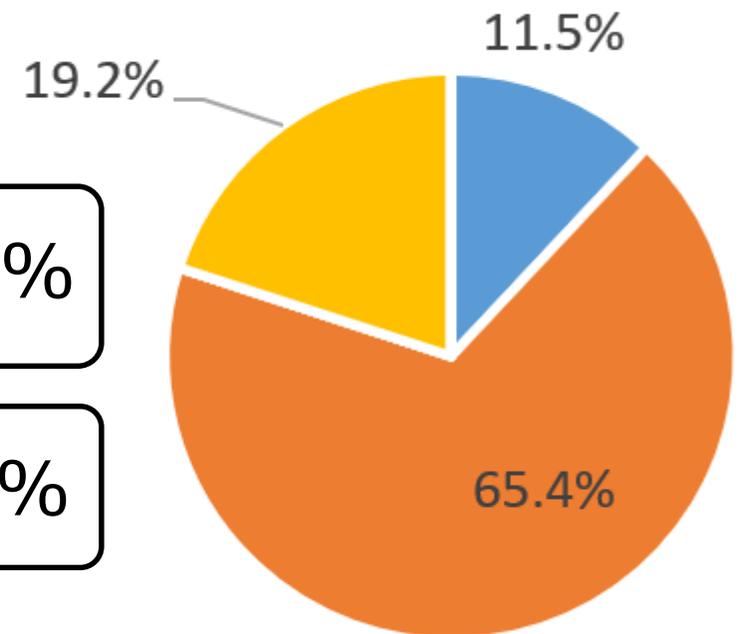
2019年12月 校内アンケートの実施 回答者26名

「自立活動における指導内容設定表」は、
改善する必要がある。

- あてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- どちらともいえない
- どちらかといえばあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

■ ■ 必要がある…76.9%

■ 必要がない…19.2%



※改善しなければならないとの回答が8割を占めている

3 研究目的, 方法について

改善の理由

- ・ 作成に要する時間, 労力がかかる。
- ・ 記入する量や項目が細かすぎて, 児童生徒全員分作成するには大変である。
- ・ できるだけ簡易な形にする。(事務量の適正化) 等



児童生徒全員に対して取り組めるような様式に改善する
中心的課題の導き出し方の妥当性についても検討

3 研究目的, 方法について

2020年度の取組

- 各学部の自立活動の取組を再確認するための協議
 - ① 児童生徒の実態把握について
 - ② 中心的課題の導き出し方について
 - ③ 自立活動の時間における指導について
 - ④ 「自立活動の時間における指導」の内容を他の教科等に
どのように活かしているか
- 設定表の作成, 活用・中心的課題の改善・克服に
向けた授業実践
- 全体研究, 各学部研究のまとめ

4 各学部研究について

5 総合考察

小学部研究

〈小学部研究テーマ〉

小学部段階での生活単元学習における自立活動の指導について

～学級と個人の目標の妥当性を高め、

集団指導と個別指導の両立を図った授業づくり～



4 各学部研究について（小学部）

小学部研究

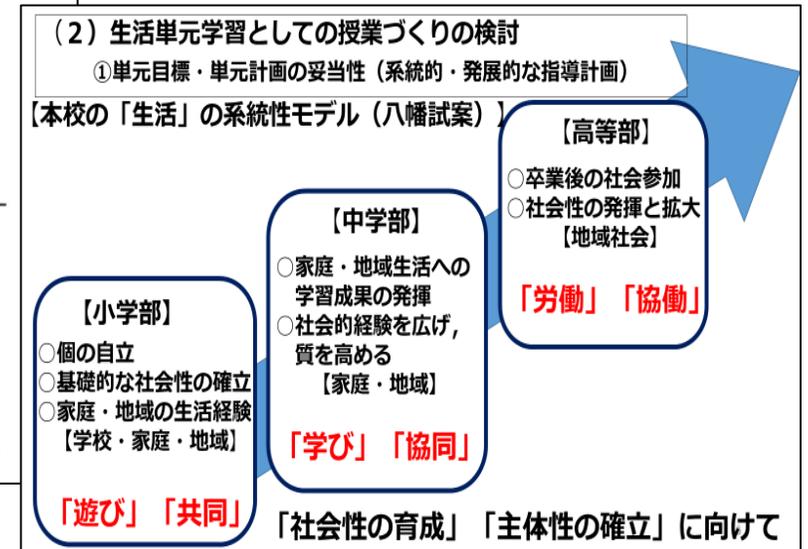
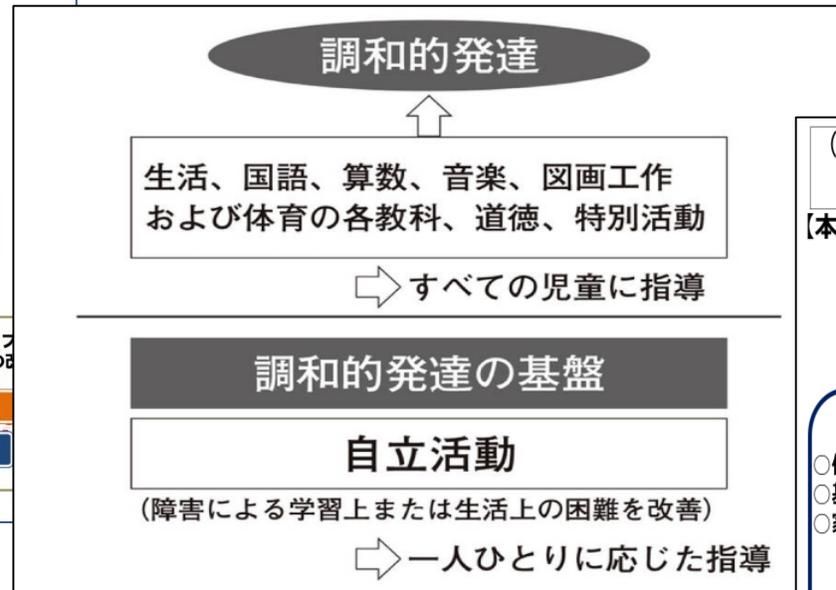
1 目的

- (1) これまでの学校研究での成果，新学習指導要領に示されている方向性や各教科等の目標を踏まえた生活単元学習の目標や活動内容の設定をする。
- (2) 自立活動内容設定表の作成を通して，個々の児童（対象児）の妥当性の高い中心的課題や適切な目標を設定する。
- (3) 学級や児童の目標を達成するための授業展開や教材作り，支援ができる。

4 各学部研究について（小学部）

<文献研究（各種資料等）>

- ①新学習指導要領に示されている内容や方向性
- ②自立活動の位置付け
- ③学校研究の成果等



4 各学部研究について（小学部）

<研究協議>

「中心的課題や指導目標を導き出すために」
→作成した内容を学部教員で検討

- 妥当性を高める
（実態や課題とのつながり）
（優先順位が高い）

→**自立活動の指導内容設定表の改善に向けて**

- 流れ図の形式、項目追加等
（見やすい、分かりやすい）
- より短時間で作成できるか
（項目の精選、思考の筋道の確認）

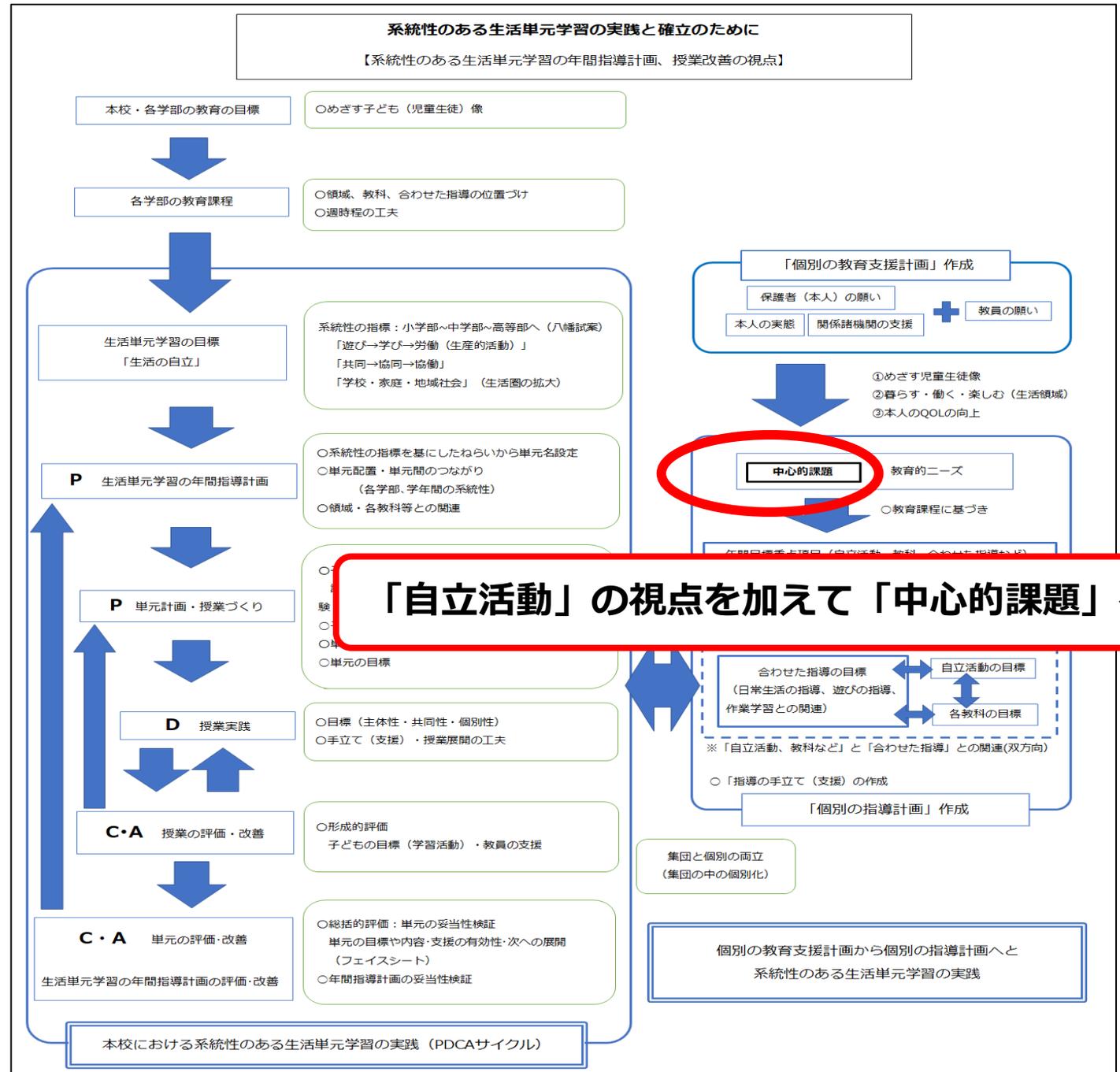


小学部研究

<授業研究>

研究成果の継続

【チャート図に沿った授業づくり】



4 各学部研究について（小学部）

<授業研究>

【第Ⅰ期】（2018年度～2019年度）

【生活単元学習（集団）】

新学習指導要領の方向性

本校や小学部の目標

生活単元学習としての目標
（学校研究の継続）

生活単元学習

年間指導計画
（各教科等との関連）

単元計画（指導計画）

本時（授業）

【対象児（個別）】

個別の教育支援計画
（保護者や本人の願い）

学習上・生活上の困難
児童の実態（27項目）

困難さの原因・背景

中心的課題（優先的な目標）

具体的な目標

（自立活動の指導）
（自立活動の時間における指導）

【第Ⅱ期】（2020年度）

4 各学部研究について（小学部）

<成果と課題>

目的（1）これまでの学校研究での成果，新学習指導要領に示されている方向性や各教科等の目標を踏まえた生活単元学習の目標や活動内容の設定をする



- 生活単元学習研究での授業づくりは継続して取り組めた。
 - チャート図に基づいた授業づくり
 - 小学部3学級で単元テーマを統一（主に年中行事）し、各学級としてのねらいをもって授業づくりができた。
- 新学習指導要領や自立活動等の各種資料は、内容が膨大であるため、深めていくための時間がまだまだ必要である。

4 各学部研究について（小学部）

<成果と課題>

目的（2） 自立活動内容設定表の作成を通して、個々の児童（対象児）の妥当性の高い中心的課題や適切な目標を設定する。

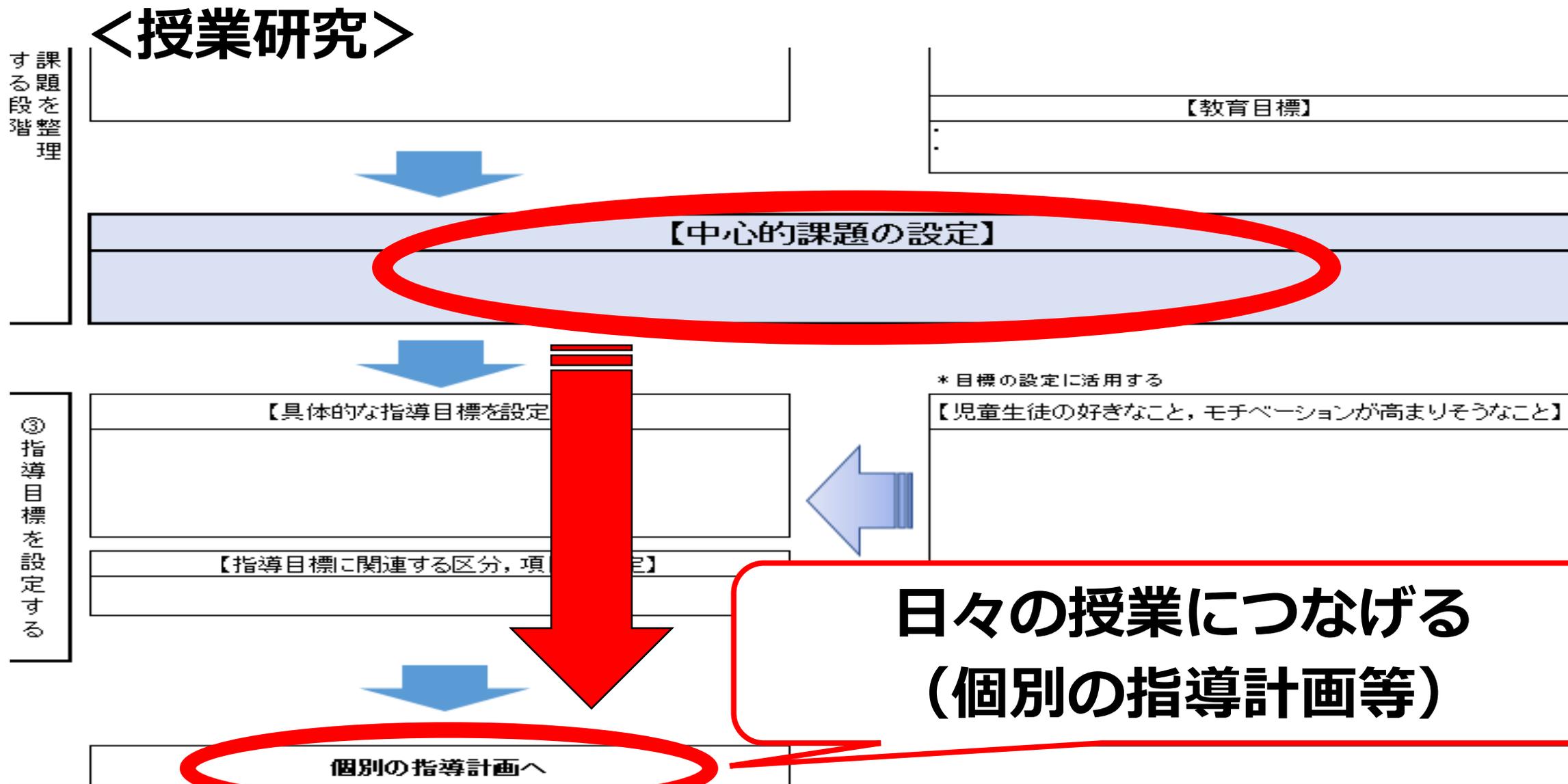
目的（3） 学級や児童の目標を達成するための授業展開や教材作り、支援ができる。



【第I期（2018～2019年度）】

- 中心的課題に基づく自立活動グループでの学習と各教科等での指導を関連付けする意識を高めた
- 効果や般化が見られるようになった

4 各学部研究について (小学部)



4 各学部研究について（小学部）

<成果と課題>

- (2) 自立活動内容設定表の作成を通して、個々の児童（対象児）の妥当性の高い中心的課題や適切な目標を設定する。
- (3) 学級や児童の目標を達成するための授業展開や教材作り，支援ができる。



【第Ⅱ期（2020年度）】

- 妥当性の高い中心的課題をより意識して作成
- 一般化場面を意識して指導目標を設定するようになってきた
(先に一般化場面を想定して目標設定することを意識)

4 各学部研究について（小学部）

<今後の課題>

- (1) 対象児を中心に中心的課題や目標設定についての知見を、対象児以外の児童にも活用していく。
 - 目標設定や指導方法を考える筋道がはっきりしてきた

- (2) 妥当性を高めるために、複数人で協議をすることは有効であったが、時間の確保が難しい。
 - 設定表の作成には時間がかかる（はじめは数時間/名）
 - 協議もある程度の時間は必要
 - どのように時間を確保するのか???

4 各学部研究について（小学部）

<小学部研究の考察>

- (1) 本年度は特に、中心的課題の検討（設定表作成）のみでなく、日々の授業で実践（個別の指導計画、他の授業場面と関連）し、振り返り、妥当性や優先順位について見直すことができた。
- 「これが課題」と決めてしまいがちだった
 - 児童の成長、環境の変化等により、中心的課題が変わる
 - 筋道を立てて検討をすること
 - 全児童に作成するとなると時間の確保が必要
 - 研究や実践の早い段階で「妥当性の高い中心的課題」を導く工夫
 - 「妥当性」を高める、筋道等を確認するための
チェックシートやフローチャート等の作成（活用）

4 各学部研究について（小学部）

<小学部研究の考察>

（2）児童の実態や中心的課題に合わせて「各教科等」,
「自立活動の時間における指導」を関連させながら指導を進めた。

○本校は「時間における指導」時間を設定している

中心的課題（児童によって、ケースバイケース）

→自立活動の時間に指導を進める方がいいものと

生活や学習活動の中で指導した方がいいものを整理

→それぞれを関連付けること

→指導しやすい授業（各教科等）は何か？

○そもそもの各教科等の授業の目標達成（全児童が同様）

→生活単元学習の目標達成しつつ、自立活動の目標達成へ

4 各学部研究について（小学部）

<小学部研究の考察>

（3）研究の対象児（2019～2020年度の2年間、同じ児童で進めた）

→学年が上がり、級友や担任、環境が変わった

○中心的課題の変化

→児童の成長、実態把握の深まり

→教員の視点の広がり、検討会等での意見

→課題自体は継続的であるが、優先順位の変更

○2年間で児童の成長や変化に気づけた

○設定表の書式の変更が見比べやすく、分かりやすさも向上

○対象児が同じでも設定表作成には時間がかかった など

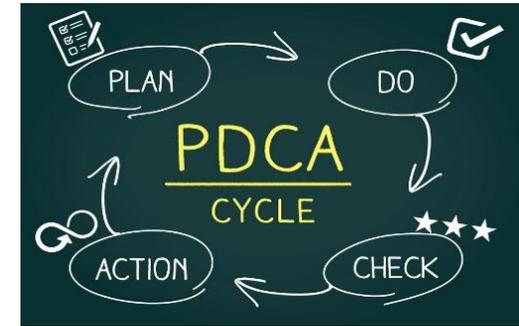
☆これらの知見を他児に広げていくための工夫が必要（課題）

4 各学部研究について（小学部）

<小学部研究の考察>

（4）授業改善

- 児童にとって活動の分かりやすさ、目的意識（興味関心、現実度等）、知識・技能の習得やその活用等
→それぞれの目標に適した授業（各教科等）や活動設定が重要
- 実践を振り返ること（学習評価）が大事（改めて感じた）
→現時点の学習状況、次の課題（ステップ）が見えてきた（児童の自己評価、教員の支援評価）
→どのような方法がよいのかは、今後の検討課題



4 各学部研究について（中学部）

中学部研究

中学部研究テーマ

**「生徒の中心的課題の改善・克服に向けた指導実践
や授業改善を行い，個々の持てる力を高める」**



4 各学部研究について（中学部）

中学部研究

<目的>

- ① 教員間の協議を通じて、中心的課題を設定し、指導の方向性を共通理解する。
- ② 生徒の中心的課題の改善・克服に向けた授業実践に取り組む。
- ③ 指導目標や具体的な指導内容の評価を行う。

4 各学部研究について（中学部）

＜中学部研究の仮説＞

- ① 学部教員全員が、生徒のできることや好きなこと、課題となることを共通理解することを通して、妥当性の高い中心的課題を導き出せるであろう。
- ② 指導に関わる教員全員で指導目標を達成するための指導内容や指導場면을協議し、実践することで、中心的課題の改善・克服に向けた授業実践ができるであろう。
- ③ 指導に関わる教員全員で指導目標や指導に対する評価を行うことを通して、個々の持てる力を高める授業改善ができるようになるであろう。

4 各学部研究について（中学部）

中学部研究

<方法>

（1）研究協議 支援会議の実施



※支援会議を開催し，生徒の実態や中心的課題，中心的課題を改善，克服するための指導目標や内容等について協議した。

4 各学部研究について（中学部）

支援会議の流れの構成要素

支援会議の流れは、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編p.104に示されている、自立活動の指導における個別の指導計画の作成手順を参考にした。

①生徒の実態について

- ・ 生徒の好きなこと，モチベーションが高まりそうなこと
- ・ 生徒が現在できていること
- ・ 生徒の課題となること

②①で出た課題から，特に指導すべき課題を導き出す（中心的課題の設定）

③指導目標を設定する

④指導目標を達成するための区分，項目を選定する

⑤具体的な指導内容を設定する。

4 各学部研究について（中学部）

支援会議に要した時間

※支援会議は生徒全員に対して実施するため、設定時間を1名あたり30分以内で実施することを目標にした。

学年	生徒氏名	会議に要した時間(分)	学年	生徒氏名	会議に要した時間(分)	学年	生徒氏名	会議に要した時間(分)
1年	A	12	2年	G	30	3年	M	29
	B	12		H	27		N	34
	C	14		I	16		O	28
	D	11		J	31		P	26
	E	10		K	24		Q	40
	F	7		L	37		R	17
会議に要した平均時間		11	会議に要した平均時間		27.5	会議に要した平均時間		29

4 各学部研究について（中学部）

支援会議で得られた成果と課題

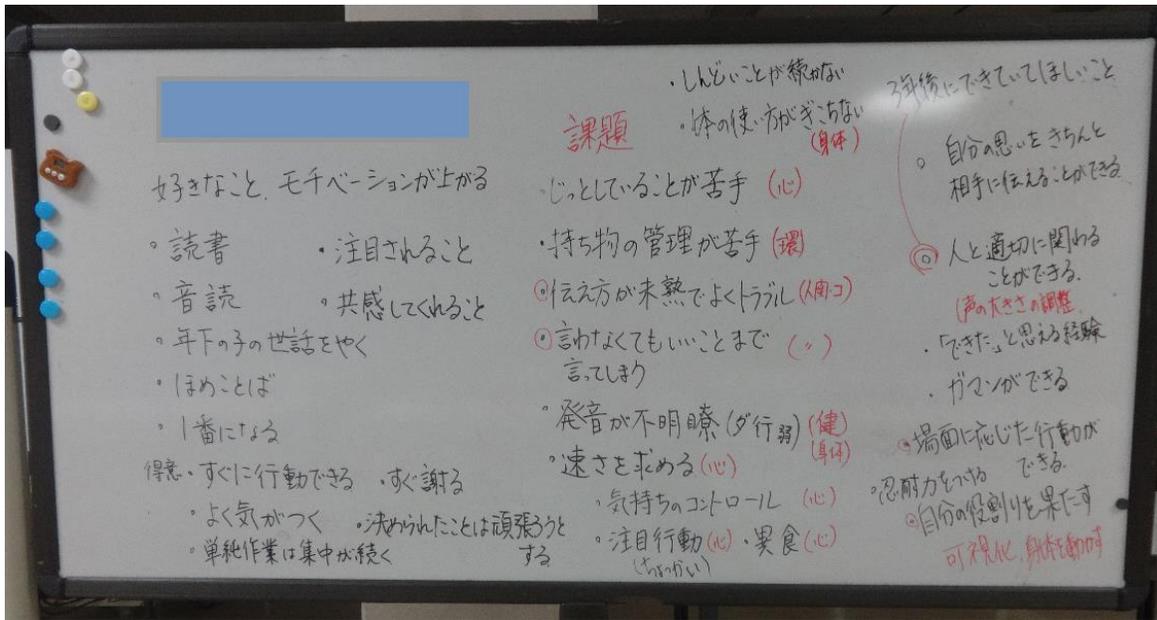
<成果>

- ・ 学部教員間で生徒の実態等について共通理解することができた。
- ・ 協議しながら設定表の試案を作成することができた。
- ・ 一人あたり30分程度で会議を実施することができた。
- ・ 自立活動の時間における指導の目標と学んだことに繰り返し取り組むための指導場面を決めて共有することができた。
- ・ 担任一人が設定表を作成しその後に協議していた昨年は、作成にかかった時間等の記録はないが、作成に3～4時間、会議に2時間かかっていたことを考えると大幅な時間短縮ができた。

<課題>

- ・ 学部に所属する教員全員の日程調整が必要である。
- ・ 1年生については、実態把握を行うための資料が引き継ぎ資料しかないため、再度支援会議を実施する必要がある。

※支援会議を行うことで 「自立活動における指導内容 設定表」の作成と共通理解を 同時に図ることができた。



支援会議・ホワイトボードの記録↑

「自立活動における指導内容設定表」→

所属	中学部	3年	氏名	N
プロフィール	診断名	知的障がい		
	アセスメント結果	太田Stage評価:StageIV-後期(2020.6.17) S-M社会生活能力検査 6歳10か月(2019.7.25)		

【児童生徒の生活上・学習上のつまずき】

- 生活リズムが不規則であり、寝るのが遅くなって睡眠時間が短かったり朝食を食べられていなかったりすることが多い。
- 髪に寝癖がついていたり、制服に猫の毛がついていたりすることがある。
- 人前で話することが苦手であり、声が小さくなってしまいうことがある。
- 身体が硬い。

将来をイメージする段階

① 実態把握の段階

* 児童生徒の生活上・学習上のつまずきに関する項目に記入する

【児童生徒の実態】				
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体動き
<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムや生活習慣が不規則である。 朝ご飯を食べることが多い。 身だしなみが整っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 情緒は安定しているが、予定の変更にも落ち着いて対応が難しい。 共通しをもって活動に取り組むことができる。 緊張する場面や初めての場面では、大汗をかいて体調が悪くなることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に遊んだり話したりして楽しむことができる。 自分に自信が持てず行動をためらってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな音は苦手であり、本人から「苦手です」と訴えがある。 目と手の協応動作が難しいことや書字に苦手意識がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢を保持できる時間が短い。 動作やポーズの模倣が苦手である。 ボディイメージが難しく、バランスが取りにくい。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な言語指示を理解できる。 自分から言葉にして話をするに苦手意識がある。 報告や援助要求などのやりとりには課題がある。 			

【実態を踏まえた、優先すべき指導目標】

- 自分の思いや気持ちを相手に伝えることができる。
- 報告や援助要求ができる。
- 身だしなみを整えることができる。
- 規則正しい生活を送ることができる。

② 課題を整理する段階

* 指導目標の設定に活用する(教育支援計画とリンク)

【3年後の姿】

- 自分の思いや気持ちを相手に伝えることができる。
- 報告や援助要求ができる。
- 身だしなみを整えることができる。
- 規則正しい生活を送ることができる。

【本人・保護者の願い】

- 保護者…一般的な生活に必要な事ができるように。(一人で買い物、一人で乗り物を利用できる)
- 本人…仕事をしたい。

【進路希望】

本校高等部進学、就労

【教育目標】

- 1 こととからだの調和のとれた人間力を育てる。
- 2 自他共に大切にできる態度を養う。
- 3 生活に生かすことのできる知識や技術の向上を図る。
- 4 個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。

【中心的課題の設定】

自信のなさから、自分の考えを伝えることや、集団の中で声を出したり、役割を遂行したりすることが苦手である

③ 指導目標を設定する

【具体的な指導目標を設定する】

自分を取り組みたい活動を選択したり、自分の思いを相手に伝えたりすることができる。

【指導目標に関連する区分、項目の選定】

コ(2)人(3)

* 目標の設定に活用する

【児童生徒の好きなこと、モチベーションが高まりそうなこと】

猫、人のため役立つことが好き、人と関わること、褒められて一緒に喜んでくれること、感謝されること

【児童生徒が現在できていること】

行動範囲が広い(自転車に乗れる)、一人で買い物ができる、場の雰囲気よめる、走る姿勢がよい。

個別の指導計画へ

4 各学部研究について（中学部）

<方法>

（2）調査研究

保護者アンケートの実施

※保護者アンケートを実施し、中学部に在籍している生徒の保護者全員（18世帯）から回答を得ることができた。回答結果から、次のようなニーズを抽出することができた。

4 各学部研究について（中学部）

<家庭生活でこうなって欲しいこと・できるようになって欲しいこと>

- 洗濯,ごはん,食生活など自分で考えて行動して欲しい。
- 服が一人で着られるように服の前後や表裏の理解や,ファスナー,ボタン,ひもなど,手先が器用に使えるようになって欲しい。
- 落ち着いて行動できるようになって欲しい。**
- 家のお手伝いをできるようになって欲しい
- 自分自身の身の回りのことが,きちんとできるようになって欲しい。
(着替え,身だしなみ,トイレなど)
- ゆっくりといねいな言葉で話ができるようになって欲しい。**
- 季節に応じた服装ができるようになって欲しい。
- 自分の思っている事,考えている事をきちんと伝えられるようになって欲しい。**

太字・・・対象生徒

4 各学部研究について（中学部）

<地域生活でこうなって欲しいこと・できるようになって欲しいこと>

- **兄弟と一緒に地域の行事に参加できるようになって欲しい。**
- 困っている時に周りの人に助けを求め、自分の思いを伝えられるようになって欲しい。
- やらなければならないことは、最後までやり遂げて欲しい。
- たくさんの人とかかわって欲しい。
- 外を一人で歩けるようになって欲しい。（危険を回避できるようになって欲しい）
- 一人では無理でも、買い物（おつかいのように決められたものを買ってこれる）ができるようになって欲しい。
- **近所の人に挨拶を自ら出来るようになってもらいたい**
- **自分の気持ちを伝えることが出来るようになって欲しい。**

太字・・・対象生徒

実態把握 + 保護者のニーズ



中心的課題

中心的課題の妥当性を高め、指導の必要性を裏付けることができた。

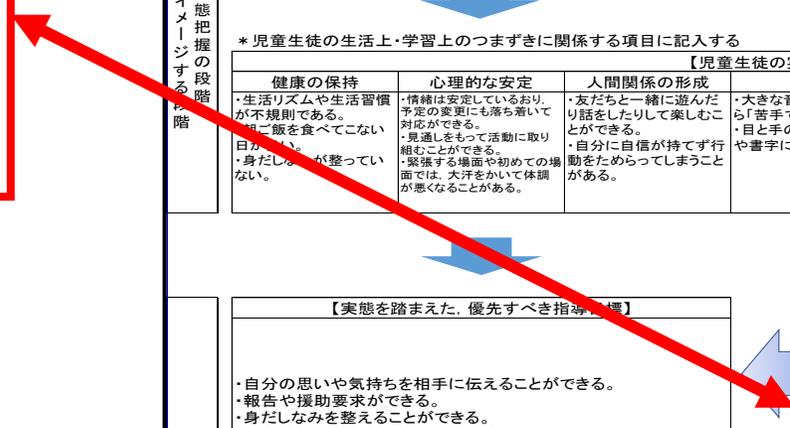
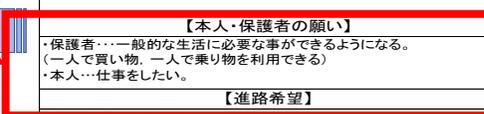
「自立活動における指導内容設定表」 →

所属	中学部	3年	氏名	N	
プロフィール	診断名	知的障がい			
	アセスメント結果	太田Stage評価: StageIV-後期(2020.6.17) S-M社会生活能力検査 6歳10か月(2019.7.25)			
【児童生徒の生活上・学習上のつまずき】					
<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムが不規則であり、寝るのが遅くなって睡眠時間が短かったり朝食を食べられていなかったりすることが多い。 髪に寝癖がついていたり、制服に猫の毛がついていたりすることがある。 人前で話をするのが苦手であり、声が小さくなってしまふことがある。 身体が硬い。 					
* 児童生徒の生活上・学習上のつまずきに関する項目に記入する					
【児童生徒の実態】					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
生活リズムや生活習慣が不規則である。 朝食を食べない日が多い。 身だしなみが整っていない。	情緒は安定しているが、予定の変更にも落ち着いて対応ができる。 見通しをもって活動に取り組むことができる。 緊張する場面や初めての場面では、大汗をかいて体調が悪くなることもある。	友達と一緒に遊んだり話したりして楽しむことができる。 自分に自信が持てず行動をためらってしまうことがある。	大きな音は苦手であり、本人から「苦手です」と訴えがある。 目と手の協応動作が難しいことや書字に苦手意識がある。	姿勢を保持できる時間が短い。 動作やポーズの模倣が苦手である。 ボディイメージが難しく、バランスが取りにくい。	簡単な言語指示を理解できる。 自分から言葉にして話をすることに苦手意識がある。 報告や援助要求などのやりとりには課題がある。
* 指導目標の設定に活用する(教育支援計画とリンク)					
【3年後の姿】					
<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや気持ちを相手に伝えることができる。 報告や援助要求ができる。 身だしなみを整えることができる。 規則正しい生活を送ることができる。 					
【本人・保護者の願い】					
<ul style="list-style-type: none"> 保護者…一般的な生活に必要な事ができるように。(一人で買い物、一人で乗り物を利用できる) 本人…仕事をしたい。 					
【進路希望】					
【教育目標】					
<ol style="list-style-type: none"> ここからからだの調和のとれた人間力を育てる。 自他共に大切にできる態度を養う。 生活に生かすことのできる知識や技術の向上を図る。 個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。 					
【中心的課題の設定】					
自信のなさから、自分の考えを伝えることや、集団の中で声を出したり、役割を遂行したりすることが苦手である					
* 目標の設定に活用する					
【児童生徒の好きなこと、モチベーションが高まりそうなこと】					
猫、人のため役立つことが好き、人と関わること、褒められて一緒に喜んでくれること、感謝されること					
【児童生徒が現在できていること】					
行動範囲が広い(自転車に乗れる)、一人で買い物ができる、場の雰囲気よめる、走る姿勢がよい。					
【具体的な指導目標を設定する】					
自分を取り組みたい活動を選択したり、自分の思いを相手に伝えたりすることができる。					
【指導目標に関連する区分、項目の選定】					
☐ (2)人 (3)					
【個別の指導計画へ】					

① 実態把握の段階
将来をイメージする

② 課題を整理する段階

③ 指導目標を設定する



4 各学部研究について（中学部）

<方法>

（3）授業研究

目標達成に向けた授業実践，
指導目標や具体的な指導内容の評価，
授業改善の実施

※支援会議を通じて生徒の実態や中心的課題，中心的課題を改善，克服するための指導目標や内容等について協議した。

4 各学部研究について（中学部）

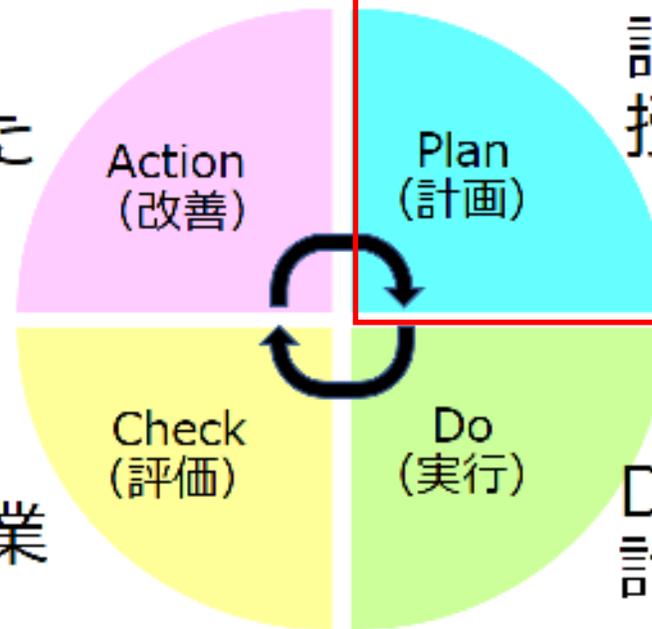
教育活動全体で取り組む自立活動の指導 授業改善のPDCAサイクル

Action（改善）

授業研究会
学部研究会を通じた
今後の授業改善に向けた
方策の協議

Check（評価）

授業研究会
学部研究会を通じた授業
の振り返り・評価
般化の評価



Plan（計画）

「自立活動における指導内容
設定表」の作成・共通理解・
授業計画

Do（実行）

計画に基づいた授業の実施
（般化を含む）

4 各学部研究について（中学部）

【Plan】

①研究授業と対象生徒の選定

研究授業：作業学習（工芸）

対象生徒：工芸各グループ（パッチワーク班・紙工班・木工班）
から1名ずつ

②研究グループの設定

対象生徒1名につき，中学部教員2～3名で研究グループを作り，
教員それぞれが対象生徒に対して指導計画立案シートを作成した。

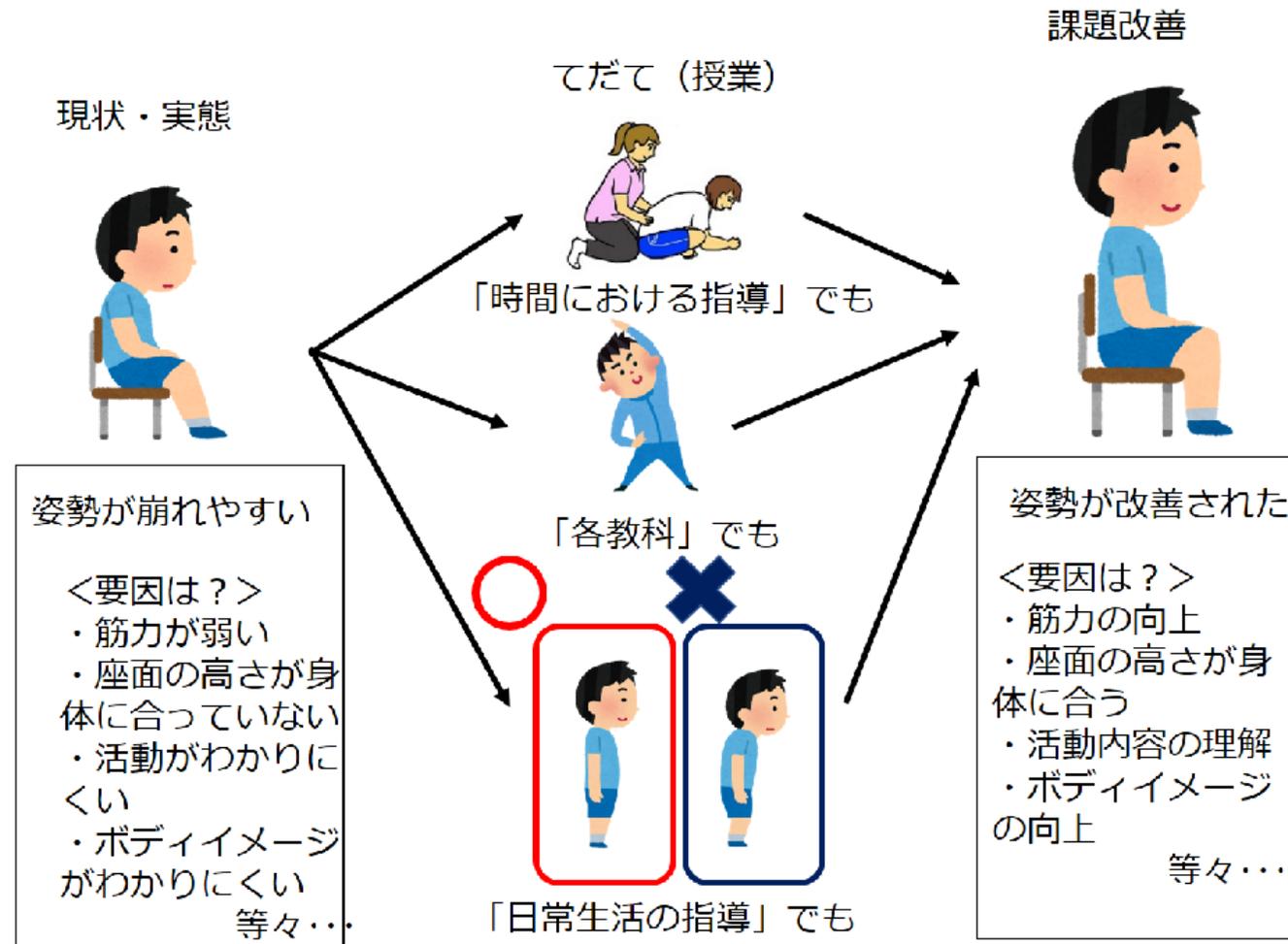
<指導計画立案シート>

中心的課題から標的行動，指導場面を決めて複数の授業で中心的課題の改善・克服に向けた取組を行う

指導計画立案シート（2020年度版）		令和2年7月17日
生徒氏名 _____ 担当教員 _____		
生徒の中心的課題：口唇の動きの不十分さや伝えたい気持ちの高まりからくる早口のために，会話の内容に伝わりづらさがある。		
標的行動：授業開始時と授業終了時に友達に伝わりやすい言い方であいさつの号令をかけることができる。		指導場面：作業学習（工芸） パッチワーク
指導期間 2020年 7月 日 ~ 2020年 9月 日		
<p>A（先行刺激）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教える手順を時系列に書く ・修正の仕方 	<p>B（行動）</p>	<p>C（結果）</p> <p>強化の仕方</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【授業開始時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・号令を依頼する。 ・伝わりやすい言い方のポイントを伝える。（ゆっくり話すこと，口唇の動かし方） ・号令が伝わりにくいようであれば示範し再度号令をかけるよう促す。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【授業終了時】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・号令を依頼する。 ・授業開始時の号令の良かった所を伝えたり，改善点を伝えたりする。 ・号令が伝わりにくいようであれば，示範し再度号令をかけるよう促す。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>伝わりやすい言い方で，あいさつの号令をかける。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や教員が，すぐに挨拶をする。 ・号令の良かった所を褒めたり，たたき送ったりする。 </div>
教材 話し方のポイントを書いたメモ		

中学部教員 2～3 名で研究グループ作成 中心的課題の改善，克服に向けた指導，支援や手立て 複数の授業場面で取り組む

「イメージ図」



4 各学部研究について（中学部）

教育活動全体で取り組む自立活動の指導 授業改善のPDCAサイクル

Action（改善）

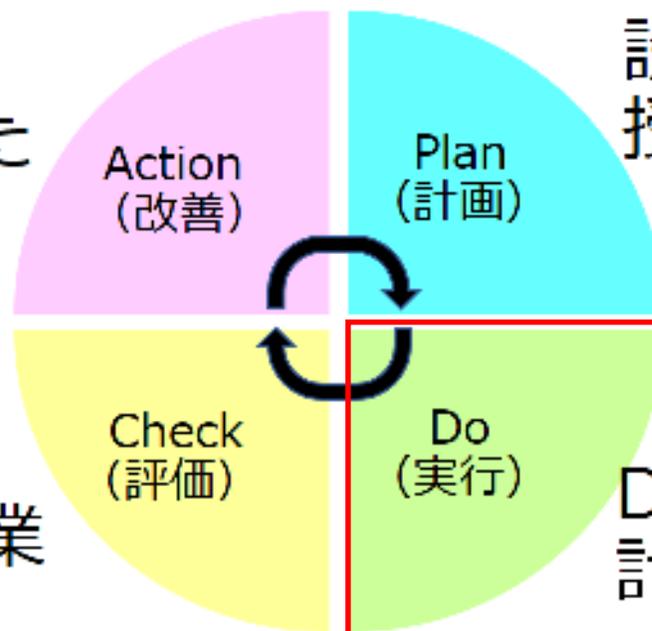
授業研究会
学部研究会を通じた
今後の授業改善に向けた
方策の協議

Plan（計画）

「自立活動における指導内容
設定表」の作成・共通理解・
授業計画

Check（評価）

授業研究会
学部研究会を通じた授業
の振り返り・評価
般化の評価



Do（実行）

計画に基づいた授業の実施
（般化を含む）

4 各学部研究について（中学部）

【Do】

③目標達成に向けた授業実践

生徒の目標を達成出来るような支援や手立て，授業展開
中心的課題の改善，克服に向けた指導場面の設定
生徒の行動の記録 など

〇〇先生，
材料ください

作業学習での一場面→



4 各学部研究について（中学部）

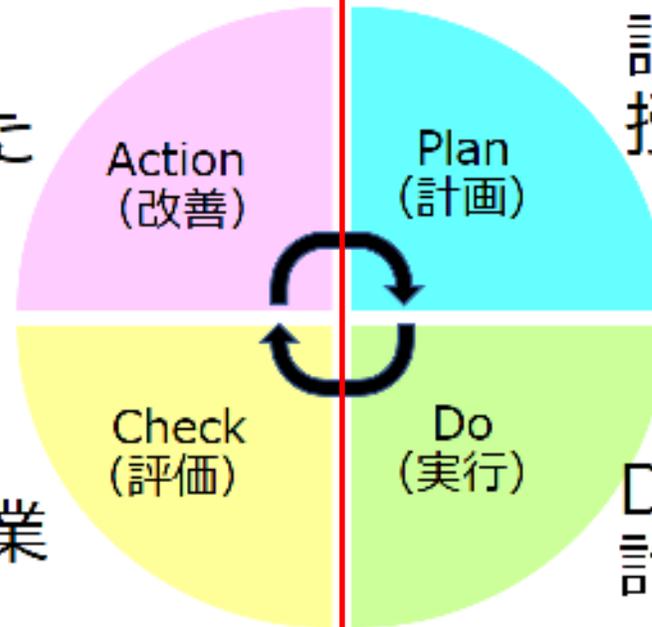
教育活動全体で取り組む自立活動の指導 授業改善のPDCAサイクル

Action（改善）

授業研究会
学部研究会を通じた
今後の授業改善に向けた
方策の協議

Check（評価）

授業研究会
学部研究会を通じた授業
の振り返り・評価
般化の評価



Plan（計画）

「自立活動における指導内容
設定表」の作成・共通理解・
授業計画

Do（実行）

計画に基づいた授業の実施
（般化を含む）

4 各学部研究について（中学部）

【Check-Action】

- ④指導目標や具体的な指導内容の評価
- ⑤授業改善の実施

指導場面を動画撮影し，学部全教員で共通理解を図った。自立活動指導計画立案シートを見ながら，ビデオフィードバックを行い，指導内容の評価及び授業改善を行った。

研究授業，授業研究会を実施し，指導や支援の評価，授業改善案の検討を行った。



学部研究会 ビデオフィードバックの様子



授業研究会 協議の様子

4 各学部研究について（中学部）

<目的①>

- ・ 教員間の協議を通じて、中心的課題を設定し、指導の方向性を共通理解する。

<結果>

- ・ 複数の教員で生徒の実態について協議することで、生徒を多面的に捉えることができ、中心的課題の設定につなげることができた。

- ・ 保護者アンケートの結果、教員間の協議により設定した中心的課題と保護者の願いが合致した。中心的課題の妥当性が保護者アンケートの結果からも示されています。

4 各学部研究について（中学部）

<目的②>

- ・生徒の中心的課題の改善・克服に向けた授業実践に取り組む。

<結果>

- ・生徒の中心的課題の改善，克服に向けた指導，支援を複数の授業で実践することができた。
- ・対象生徒1名につき，中学部教員2～3名で研究グループを構成し，教員それぞれが対象生徒に対して指導計画立案シートを作成し，計画に基づき授業実践を行うことができた。

4 各学部研究について（中学部）

<目的③>

- ・ 指導目標や具体的な指導内容の評価を行う。

<結果>

- ・ 学部教員全員でビデオフィードバックを通して、指導目標や指導内容の評価を行うことができた。
- ・ 研究授業，授業研究会を通して，中心的課題の改善・克服に向けた授業づくりや授業改善に向けた方策を協議することができた。

4 各学部研究について（中学部）

＜中学部研究の考察＞

- ・ 教員間の協議により，生徒の実態，生徒の将来像やニーズを踏まえた，中心的課題の設定ができた。
- ・ 支援会議の時間短縮，効率的な生徒理解につなげることができた。
- ・ 生徒の中心的課題の改善，克服に向けた指導，支援を複数の授業で実践することができた。
- ・ 学部教員全員でビデオフィードバックを通して，指導目標や指導内容の評価を行うことができた。

4 各学部研究について（中学部）

＜中学部研究の考察＞

- ・ 指導と評価（教員側の指導の評価はできたが、生徒自身の自己評価については十分できたとはいえない）
- ・ 実生活の中で般化できていたかどうかについての検証が不十分
- ・ 対象生徒に対する指導目標や指導内容の評価を行うことができたが、中学部すべての生徒に対して取り組むことができなかった。

→今後の指導へとつなげていく。

高等部研究テーマ

**高等部卒業後の生活に必要な力を身に付けるための、
教育活動全体で取り組む自立活動の指導**

高等部研究の目的

高等部卒業後の「生活に必要な力」を見据えた目標を設定し、それに基づいた教育活動全体で取り組む自立活動の指導の授業実践・改善を行い、進路先との連携を進める。

***設定表により導かれた中心的課題を基にして研究を進める。**

*個別の移行支援計画，設定表に基づき，就業体験の重点目標を設定する。

4 各学部研究について（高等部）

高等部の考える「生活に必要な力」

○個別の教育支援計画（個別の移行支援計画）で作成する「在学中の3年間の計画」で身に付ける力のこと。

○卒業後の社会生活に必要な力

- 「生活に必要な力」とは、教育目標や目指す生徒像としている。
- 青年期教育の中心である「働くこと」を「生活に必要な力」に関連付けることが重要であると考えている。

問題の所在

○高等部前回研究の課題

- キャリア教育の系統性を踏まえた3年間の高等部段階での学習計画を設定, 維持すること。
- 卒業後の生活の場でも活かしていくことができるような学びを設定すること。
- 時代性に合わせた「生活に必要な力」を継続的に指導していくこと。

○卒業生の実態

- 卒業後, 離職ややむを得ず進路変更をする者がいる。
- 安定して職場に通勤することができず, 家庭で過ごす時間が増えている者がいる。
- 福祉サービスとの関係が希薄となり適切な支援が受けにくくなっている者がいる。

これらの課題に対して

- 1) 個別の移行支援計画の見直し, 改善
- 2) 就業体験の重点目標と「生活に必要な力」をつなげる適切な評価の設定
- 3) 教科等と自立活動を関連付けた実践（教育活動全体の自立活動の指導）を取り上げて検討

高等部研究の仮説

1) 個別の移行支援計画を立てることで、在学中から卒業後を見据えた「生活に必要な力」を設定できるであろう。

→個別の移行支援計画

2) 就業体験（校内実習および現場実習）を行うことで、卒業後の進路につなげる「生活に必要な力」を得ることができるであろう。

→就業体験,就業体験評価票
→就業体験と自立活動との関連付け

3) 「生活に必要な力」を身に付けるために教育活動全体で取り組む自立活動の指導を行うことで、卒業後の進路につなげることができるであろう。

→授業実践,事例研究
自立活動を踏まえた就業体験,
作業学習

高等部研究の仮説と検証方法

1) 個別の移行支援計画を立てることで、在学中から卒業後を見据えた「生活に必要な力」を設定できるであろう。

高等部卒業後の「生活に必要な力」と個別の移行支援計画との関連について検討

→個別の移行支援計画の書式の改善，活用方法について見直し

4 各学部研究について（高等部）

仮説1) 検証

個別の移行支援計画の書式の改善

支援情報	
将来についての本人及び保護者の希望	
働く	
暮らす	
楽しむ	

支援情報

→ 3つの領域「働く」「暮らす」「楽しむ」

仮説1) 検証

個別の移行支援計画の書式の改善

進路の記録							
<p>評価基準：「できた（達成できた）・部分的（部分的に達成できた）・困難（達成が困難であった）」に○を付けて評価する。該当しない場合は「/」を入れる。 ※部分的にできた・困難であった場合は備考欄に支援内容、課題について簡潔に記入する。 観点別評価：「知識・技能（知・技），思考力・判断力・表現力（思・判・表），主体的に学習に取り組む態度（主体的）」の3観点で評価する。</p>							
学習場面	活動内容	観点別評価	評価内容	評価			備考
				できた	部分的	困難	
就業体験 事前学習	就業体験の目的を確認する						
	就業体験における個人目標を確認する						
	就業体験先で実習内容を確認する						

評価基準の見直し

進路の記録の評価
→ 観点別評価

評価規準

仮説1) 検証

個別の移行支援計画の書式の改善

就業体験の記録			
重点目標			
就業体験歴		主な活動内容	評価（活動の様子）

評価（活動の様子）
→各現場実習先からの就業体験評価票
のコメントを転記

就業体験の「重点目標」を記載
3年生は、「卒業後を踏まえた重点目標」を記載

4 各学部研究について（高等部）

仮説1) 考察

1) 個別の移行支援計画を立てることで、在学中から卒業後を見据えた「生活に必要な力」を設定できるであろう。

- 在学中から生徒の移行支援計画の目標や就業体験の重点目標を確認し評価できるようになった。

→次の就業体験や学年に適切につなぐことができるようになった。

→進路先との連携を密にとることができた。

高等部研究の仮説と検証方法

2) 就業体験（校内実習及び現場実習）を行うことで、卒業後の進路につなげる「生活に必要な力」を得ることができるとであろう。

①高等部全生徒の重点目標の設定

→就業体験（校内実習と現場実習）の重点目標,関連する目標の設定

②就業体験評価票の評価

→学習指導要領の観点及びキャリア教育の捉え

→自立活動の区分項目との関連づけ

③就業体験評価シートを作成

→学習指導要領の個人内評価（持ち味・良さ・感性・思いやり）に教員の気づきの記述

④就業体験（校内実習と現場実習）終了後,重点目標の評価検討

→卒業後の進路「生活に必要な力」を得られているかを検討

仮説2) 検証

就業体験評価票の改善

評価基準	適当だと思われるところに〇をご記入ください 4・・・よくできていた（自ら気づいてできた） 3・・・できていた（指示されたことができた） 2・・・あまりできていなかった（支援あり） 1・・・できていなかった（全面支援）				学習指導要領の観点	キャリア教育の捉え	教育活動全体の自立活動の指導	
	項目	内容	評価					
事前挨拶	①見通しを持つことができたか。	4	3	2	1	主	主	自(心)
	②身だしなみは適切に整えることができていたか。	4	3	2	1	知	役	
	③挨拶や聞く態度は適切だったか	4	3	2	1	主	主/役	自(人)
	④場面に応じて適切な言葉で話すことができたか。	4	3	2	1		役/協	自(コ)
	⑤問いかけに対して適切に答えることができたか。	4	3	2	1		協	自(コ)
	⑥場面に応じた質問することができたか。	4	3	2	1	主	主/協	自(コ)
	⑦メモを見たり、資料を確認したりと必要な情報を整理しようとすることができたか。	4	3	2	1	主/知	主	

評価票の内容

→ 「学習指導要領の観点」, 「キャリア教育の捉え」, 「自立活動の区分項目」と関連付け

仮説2) 検証

就業体験評価票の改善

重点目標	評価基準				
項目	内容	評価			
	①見通しを持つことができたか。	4	3	2	1
	②身だしなみは適切に整えることができていたか。	4	3	2	1
	③挨拶や聞く態度は適切だったか	4	3	2	1
事前挨拶	④場面に応じて適切な言葉で話すことができたか。	4	3	2	1
	⑤問いかけに対して適切に答えることができたか。	4	3	2	1
	⑥場面に応じた質問することができたか。	4	3	2	1
	⑦メモを見たり、資料を確認したりと必要な情報を整理しようとすることができたか。	4	3	2	1

※1・2・機会なしの場合は備考欄に
どのような支援かご記入ください。

重点目標との関連付け
→重点目標,関連目標の記載

評価回数を改善
→就業体験（校内実習）前後

仮説2) 検証

就業体験評価シートを作成

教員の気づき	持ち味・良さ (中心的課題との関連)	〈就業体験中〉 〈般化場面〉
	感性・思いやり (中心的課題との関連)	〈就業体験中〉 〈般化場面〉
	重点目標に関する 気づき	※生徒一人一人の良い点や可能性を引き出すための中心的課題(重点目標)の設定 ※仲間との協働性や主体性を発揮するためには「感性・思いやり」(個人内評価)を育む教育が大事であり、生徒一人一人「持ち味や良さ」見いだすことが適切な支援につながる

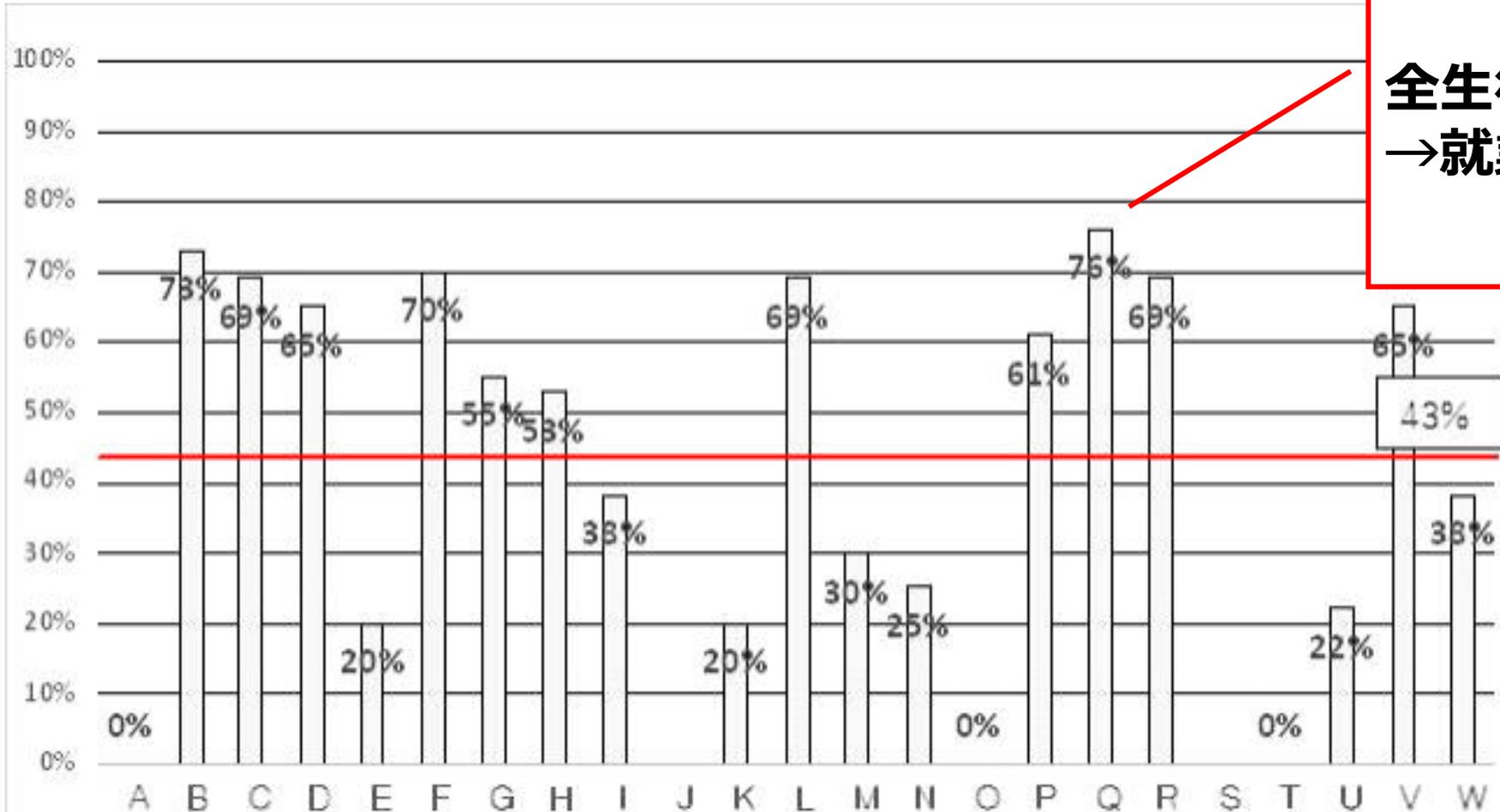
教員の気づき
→学習指導要領の個人内評価
「持ち味・良さ, 感性・思いやり」
の記入

就業体験の評価
→学習指導要領の観点,
キャリア教育の観点と関連付け

評価の記入
→就業体験中, 事後の般化場面

仮説2) 検証

重点目標の評価検討



全生徒の評価票の分析
→就業体験（事前・事後）

仮説2) 考察

2) 就業体験（校内実習および現場実習）を行うことで、卒業後の進路につなげる「生活に必要な力」を得ることができるであろう。

就業体験評価票を改訂

- 学習指導要領の観点及びキャリア教育の観点を踏まえて実践できるようになった。
- 個別の移行支援計画を踏まえて就業体験の重点目標を設定できるようになった。
- 個人内評価「持ち味・良さ、感性・思いやり」について記述できるようになった。

就業体験の評価方法の改善

- 就業体験の有効性や課題点を検討することができた。

評価が上昇した生徒は、なぜ上昇したのか？
評価の変化が無い生徒は、なぜ上昇しないのか？

4 各学部研究について（高等部）

高等部研究の仮説と検証方法について

3) 「生活に必要な力」を身に付けるために教育活動全体で取り組む自立活動の指導を行うことで、卒業後の進路につなげることができるであろう。

※事例研究（対象生徒 高1年 1名）

→就業体験（校内実習,現場実習）,作業学習

①個別の移行支援計画,設定表から就業体験の重点目標の決定

②個別の指導計画の自立活動の目標設定（自立活動の区分項目の選定）

③作業学習の重点目標の達成状況の検討

仮説3) 検証

就業体験評価票の改善

- **就業体験重点目標**

- 時間を守る, 作業に集中して取り組む

- **自立活動の区分**

- 心理的な安定, 人間関係の形成

- **作業学習の目標**

- 時間を守って朝礼に参加したり, 作業に取り組んだりすることができる。

- 自ら進んで作業に取り組み, 目標達成に向けて仲間と一緒に作業に取り組むことができる。

仮説3) 考察

「生活に必要な力」を身に付けるために教育活動全体で取り組む自立活動の指導を行うことで、卒業後の進路につなげることができるであろう。

校内実習,現場実習の結果を踏まえた作業学習の授業実践

→指導・支援上の留意点（学習指導要領の観点, キャリア教育の観点, 自立活動の区分項目を含む）が対象生徒の目標達成に効果的であった。

①就業体験（校内実習,現場実習）との関連

→目標設定の視点,手立てを就業体験と同様にしたことで,作業効率の向上が見られた。

→現場実習先の就業体験評価票に基づいた工程を参考にすることで,作業効率の向上が見られた。

②観点を踏まえたこと

→主体的に取り組むことができるような授業展開にすることで,自分の役割を果たすことができた。

その結果,仲間と協働して作業をすることができた。

③自立活動と関連させたこと

→対象生徒の自立活動の区分を踏まえた指導の手立てを工夫したことで,情緒の安定が図られた。

高等部研究の考察

(1) 学部研究の結果より

特別支援教育の教育目的は「**自立と社会参加**」

高等部では「**自立**」の意味を「周囲の支援を受けながら地域で主体的に暮らす」とし、卒業後の生活する姿として捉えた。

「**社会参加**」については卒業後、一般就労のみならず福祉就労も社会参加として捉えた。その中では医療や福祉の支援を受けながらも、能動的に自己の生き方を肯定することができることも「**社会参加**」として捉える。

高等部研究の考察

1) 個別の移行支援計画を立てることで、在学中から卒業後を見据えた「生活に必要な力」を設定できるであろう。

- 適切に運用することが難しかった点を洗い出し、個別の移行支援計画の書式や運用に関しての年間計画を改めることができた。
- 高等部在学中の移行支援計画の目標「生活に必要な力」の設定が適切に実施できるようになった。
- 運用を見直すことで、次年度の担任や進路先への引継ぎが適切に行えるようになった。

高等部研究の考察

2) 就業体験（校内実習及び現場実習）を行うことで、卒業後の進路につなげる「生活に必要な力」を得ることができるとであろう。

・生徒一人一人の就業体験の重点目標を設定

→重点目標を評価するために評価票を改善したり、教員の気付きを記載するための評価シートを作成したりした。学習指導要領の観点やキャリア教育の捉えを重視した。

高等部研究の考察

2) 就業体験（校内実習及び現場実習）を行うことで、卒業後の進路につなげる「生活に必要な力」を得ることができるとであろう。

・現場実習先から得られた評価票を検討材料に加え、卒業後の進路先の評価も加味した。

→結果として就業体験を経ていくことに生徒の就業体験の評価の平均値が上昇していることから、卒業後の進路につなげる「生活に必要な力」を得ることができていると考えることができた。

・全生徒の評価が上昇している訳ではないのでその点については今後も検討が必要。

高等部研究の考察

3) 「生活に必要な力」を身に付けるために教育活動全体で取り組む自立活動の指導を行うことで、卒業後の進路につなげることができるであろう。

・生徒1名に焦点をあてた事例研究と事例研究に関連する授業改善に焦点を当てて検討

→設定表や評価シートを作成，活用することで教員の気付きとして就業体験中の生徒の個人内評価を適切に行うことができた。

これまで就業体験は評価票による数値的な評価のみの実施であったため，生徒の学びを従来と違った方法で捉えることができた。

高等部研究の考察

今後の課題

- 卒業生が在学中に得ようとしていた「生活に必要な力」が『自立と社会参加』するうえで、重要な力となっているかの検証していくこと。
- 中心的課題を踏まえた個別の移行支援計画の重点目標を設定し、相互に関連付けし持続的な運用をし続けること。
- 卒業後の「生活に必要な力」を確認するとともに、就業体験の効果を適切に評価すること。
- 教育活動全体の自立活動の指導を踏まえつつ、「働くこと」を中心にした青年期の教育の在り方を検証し、卒業後の生活のQOLの向上が図られるよう改善を続けること。

5 総合考察

5 総合考察（成果）

教育活動全体で取り組む自立活動の指導」の検討過程と成果

- ①自立活動の指導に関しての学校全体で一貫した取組
- ②自立活動の指導の内容について学部内での共通理解
- ③目標や内容の選定を担当教員だけでなく学部全体で検討する



これらについて成果を上げることができた

「自立活動における指導内容設定表」の作成と成果

優先的な目標や中心的課題を設定



学部教員間での共通理解，協議を通して妥当性を確認

授業設計のツール，指導目標を共有するツール



複数の教員間の連携を効率的に進める重要な役割

自立活動の視点を踏まえた各学部の実践研究

- ・「教育活動全体で取り組む自立活動の指導」の研究主題の基、各学部の教育目標や目指す児童生徒像などを踏まえた学部研究が展開された。
- ・各学部の研究のベースとして、自立活動の意義や内容が踏まえられ、児童生徒の実態や中心的課題の改善・克服に向けて教育実践がなされたことがそれぞれの学部研究での成果につながった。

5 総合考察（課題）

研究成果の維持，展開について

- ・ 設定表の作成→
個々の教員が持つ知識や指導方法の共有



- ・ 成果は上がったが，時間を要し，教員の負担も大きく，また対象児童生徒に限られた取組だった。
- ・ すべての児童生徒に成果を活用することが必要
- ・ 年間業務計画としての時間確保や効率的で効果的に進めていくための工夫

5 総合考察（課題）

各学部の実践研究から見えた課題

- ・ 指導と評価に関連する課題が多く挙げられた



- ・ 「学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。（中略）教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要である。」（文部科学省,2020）

5 総合考察 (課題)

(桃山学院教育大学 石塚謙二先生より)

持てる力を高める

※ 中心的課題をさらに分析し
ねらいをより具体的に絞り込む

※ 指導目標を達成させるために
持っている力を高める手立てを
どのように工夫するか
その手立てをどう評価するか

所属	中学部	3年	氏名	M	
プロフィール	診断名	広汎性発達障害			
	アセスメント結果	太田ステージ評価 Stage III-2(2020.6) S-M社会生活能力検査 6歳9ヶ月(2019.7.26)			

【児童生徒の生活上・学習上のつまずき】

- ・夜、目が覚めたら再び眠りにくい。週末に疲れやすい。
- ・ぎこちない歩行、バランスの悪さ、ボディイメージが十分つかめていないのでは。
- ・体を斜めにして物を見ようとする。
- ・相手への言葉の伝え方(早口、誰に対しても同じような言葉遣い)
- ・ルール理解(公共の場でも一人でしゃべって笑う等の場面が見られる)

① 実態把握の段階

将来をイメージする段階

* 児童生徒の生活上・学習上のつまずきに関する項目に記入する

【児童生徒の実態】					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・周期性症状がある。 ・午後からや週末になると疲れがみられ、次の行動に移ることが遅くなる。 ・夜、目が覚めたら再び眠りにくい。	・状況の理解が難しい。(公共の場でも話し続ける)	・一方的に話しかけることがある。	・ルール理解(公共の場でも一人でしゃべって笑う等の場面が見られる)	・口唇の動きに不十分がある。 ・ぎこちない歩行、バランスの悪さ、ボディイメージが十分つかめていない。 ・体を斜めにして物を見ようとする。	・言葉で明確な言葉は理解できる。 ・早口になる。

② 課題を整理する段階

【実態を踏まえた、優先すべき指導目標】

- ・口唇の動きの向上
- ・公共の場でのルール理解
- ・相手に伝わりやすい伝え方
- ・身体の動きのぎこちなさの改善

【3年後の姿】

- ・自分の得意なことを活かした進路先に就労することができる。(福祉の就労)
- ・公共の場でのルールを理解して、一人でも安心して活動することができる。
- ・自分のしたいことを教員や友達に伝えることができる。

【本人・保護者の願い】

- ・ゆっくり丁寧な言葉で話ができるようになってほしい。
- ・人から愛される子どもになってほしい。(行儀、挨拶)
- ・生きていく力をもちてほしい。(決められたことは最後までやる)

【進路希望】

- ・グループホーム、就労移行が継続支援希望

【教育目標】

1. こことからこの調和のとれた人間力を育てる。
2. 自己共に大切にできる態度を養う。
3. 生活に生かすことのできる知識や技術の向上を図る。
4. 個々の「参加」の質を高めて、生活を豊かにする態度を育てる。

【中心的課題の設定】

伝わりやすい伝え方で話することができる。

③ 指導目標を設定する

【具体的な指導目標を設定する】

相手に伝わりやすい言い方で、話すことができる。

【指導目標に関連する区分、項目の選定】

人(4)、コ(2)、コ(5)

【児童生徒の好きなこと、モチベーションが高まりそうなこと】

- ・お笑いが好き(8時だよ全員集合、一発ギャグ等)
- ・戦隊もの(仮面ライダー、ウルトラマン、プリキュア)
- ・集団活動のリーダー、先輩という言葉を使われること
- ・ダンス(USA)

【児童生徒が現在できていること】

- ・何事にも意欲的に取り組むことができる
- ・ルールが理解できていることはルールを守ろうとすることができる。
- ・「分からない」を伝えることができる
- ・苦手なことも、好きなこととセットであれば意欲的にできる。

個別の指導計画へ

5 総合考察（課題）

（桃山学院教育大学 石塚謙二先生より）

手立てを評価する

※指導がうまくいったかどうか
目標が達成できたかどうかは
教員が行う手立てを評価する
ことで明らかになる。

そういった観点で授業を見ることが大事

手立てを評価する7つの観点

- ①活動の選択
- ②活動の量
- ③活動の順番
- ④活動の場
- ⑤道具・教材
- ⑥ペア・グループの工夫
- ⑦直接的対話

5 総合考察（課題）

地域の学校で活用するために

- ・ 設定表を実際に活用するためには、作成する教員の専門性の向上や特別支援教育について協議したり、児童生徒の実態を共有したりする時間を確保する必要がある

- ・ センターの機能を活用して本校の教員と設定表を一緒に作成することや、オンライン会議を活用した研修など



地域の学校でも活用できるように（研究の成果を発信）